

「新しい指導要領に基づく中等教育の日本語教師養成リーダー研修」

台湾では、今年「十二年國民基本教育選修課程綱要」が発表される予定ですが、外国語科目の一つとして、日本語も代表数名がこの綱要の作成に関わってきました。これは台湾の初等・中等レベルの教育の新しい方向を定める重要なガイドラインであり、これからの台湾における日本語教育の理念・実践の指針として重要な役割を果たすものです。この重要性を鑑み、交流協会とJ-GAP台湾は共同主催で綱要について学び、それをどのように教育現場で実践していくかを考える研修を実施しました。2015年7月14日から16日までの3日間、台湾中部の日月潭教育会館に中等・高等教育レベルの日本語教師が集まり、合宿し、この新しい綱要について学び、その理念、概念を実際の授業でどのように実践するかを検討しました。

具体的には、この研修では次の活動を行いました。

- (1) 新しい綱要の理念、内容について理解し、それが台湾の日本語教育をどのように変えていくのかを考える
- (2) 新しい綱要に基づき、自分のクラスの学習目標を立てる
- (3) バックワードデザインに基づき、学習目標達成の証拠を集める実践能力評価をデザインする
- (4) 新しい綱要をもとにした授業内容がどのようなものか、学習シナリオを書いて示す
- (5) 学習シナリオを実施するためのステップバイステップのレッスンプランを書く
- (6) 新しい綱要をもとにしたクラスで、実践能力を身につけるために文法・語彙・文化などの要素がどのような役割を果たすかを考え、それをどのように教えるかを考える
- (7) 新しい綱要をもとにしたクラスで、どのように形成的評価、総括的評価を行うかを考える
- (8) 新しい綱要のもと、台湾の日本語教育の質を上げるために、レベルの異なる教師間でどのような連携が必要であるかを考える

台中駅から日月潭教師会館にバスで着いた参加者一行は、すぐに研修室に集まり、1日目の午後の活動を始めました。まず、日本語教育の代表として、綱要作成に参加してきた陳淑娟先生から綱要の説明がありました。綱要作成の経緯、その内容と4つの能力レベルの設計、履修時間数とレベルの関係、綱要による目標設定と評価、綱要実施の中での教師の役割など、綱要について知る初めての機会となりました。その後、世界の公教育の現在の方向性についての講義があり、21世紀を生きるために必要なスキルを付けることが教育の最大目標になってきていること、高い目標を立てて、それを達成するように教える教育が行われていること、そして、これらの方向性が綱要にどのように反映しているかを考えました。

夕食をはさんで、夜からグループ活動を開始しました。まず、あらかじめ

作られた5名から7名の教師からなる各グループが概要に従って、具体的にカリキュラムのゴールを設定し、さらに、概要で提示されているテーマを一つ選び、ユニットの学習目標を設定しました。また、カリキュラムのバックワードデザインの考えに基づき、目標を達成したことを示す証拠を集めるための評価についても考えてみました。

2日目の午前中は、各グループで、1日目に設定したゴール、学習目標を達成する授業の内容を示す学習シナリオを作成しました。新しい概要の目的、内容を反映し、単に文法、語彙を教えるのではなく、日本語のコミュニケーション能力を発展させ、それによって様々な社会活動、思考活動を行える能力や概要が強調しているコア・リテラシーを発展させることを目的としたクラス活動を開発しました。

2日目の午後は、午前中に作成したシナリオをクラスで実践していくためのステップを具体的、かつ詳細に書き、文法・語彙・文化などの学習項目をどのように習得させて、それをどのようにコミュニケーション能力に結びつけていくかを考え、授業の効果的ステップを考えました。

夜は、マイクロティーチングに集中し、それぞれのグループが作った学習シナリオを達成するために必要な文法・語彙・文化項目などを考えました。そして、文法項目1つ、語彙グループ1つを選び、それらを効果的に教えるプロセスを考えました。

最終日、3日目の午前中の前半は、作った学習シナリオ、レッスン・プラン、語彙と文法レッスンをもう一度見直し、実際のクラス実践の中で、いつ、どのように形成的評価、ならびに総括的評価を行うかをグループごとに話し合いました。また、実践能力を評価する総括的評価のルーブリックも作ってみました。

午前中の後半は、今回の研修のまとめとなるディスカッションを行い、今回の研修で作った学習シナリオ、レッスン・プラン等を今後どのように実践し、その結果をどのように報告するか等の計画を立てました。また、台湾の日本語教育、日本語教師の質を上げて、概要の目的とするものを達成するために今後どのような活動をJ-GAP台湾が行っていくかも話し合いました。

今回の研修では7つのグループが各活動の後、活動内容を研修のために用意したwikiに掲載し、それをもとに発表を行い、ほかのグループからのフィードバックを受けました。研修後、各グループはフィードバックをもとに作成したものを修正し、改めてwikiに掲載しました。参加者はこのwikiには常にアクセスが可能で、このwikiを通じて、今後とも参加者同士の交流を続けるとともに、この研修のフォローアップの場とする予定です。

今回は台湾の日本語教育では初めて合宿という形で、研修を行いました。短時間に多くのことを集中的に学び、大きな成果を上げることができました。

また、高校と大学レベルの先生が同じグループで協働作業をする中で、お互いの置かれた状況を知り合うことができ、J-GAP 台湾における今後のアーティキュレーション達成のための強い活動基盤が作られました。他の教科に先駆け、日本語教育が綱要実施のための具体策を考える研修を行ったことは、台湾における日本語教育の先見性、先進性を示すものでもあると思います。この研修が日本語教育での綱要の実施を進めるきっかけとなってくれることを望みます。